



## 今回の紙面

- ◆地域医療最前線 NO. 55 《西尾祐二 院長》 ◆看護師さんのページ NO. 35 《武海栄看護部長》
- ◆研修医のページ NO. 38 《白神智貴先生》
- ◆一般社団法人しまね地域医療支援センターの活動報告
- ◆平成 26 年度夏季地域医療実習報告会 ◆平成 26 年度自治医科大学説明会



地

域

医

療

最

前

線

NO. 55

大田市立病院

院長 西尾 祐二

大田 市立病  
院は、  
島根県  
の県央  
地域に  
位置す

る大田二次医療圏の中核病院です。平成 11 年に前身の国立大田病院が大田市に移譲となり、今年で満 15 年を迎えました。病床数は 339 床、診療科は 20 を標榜していますが、常勤の医師数は現在 24 名であり、常勤医不在の診療科は島根大学医学部の医師の応援で診療を行っています。圏域の人口は約 6 万人、中山間地が多く、高齢化が進む島根県に於いても高齢化率が最も高い圏域です。高齢者医療が中心となりますが、周産期医療の診療科が充実しているという特色もあります。

当該の使命は、地域医療を支える先端の病院として、その役割を果たすことにあると考えています。平成 18 年から訪問リハビリを提供し、通所困難な利用者のニーズに対応しています。中

山間地が多く、移動に時間を要し効率性が悪いところが悩みでもあります。平成 24 年には、訪問看護ステーションを開設、大田市医師会の協力のもと在宅医療にも積極的に取り組んでいます。年々利用者も増え、夜間の緊急訪問や在宅の看取りにも対応しています。また遠隔画像診断による近隣の病院の診療支援も行っています。年間約 1500 件の依頼があり、年々増加の傾向にあります。CT、MRI の画像読影を中心に当該 2 名の放射線科医が担当、地域の医療の質の向上に寄与しています。

病棟構成はケアミックスになっており、急性期病床 284 床（感染症病床 4 床を含む）と療養病床 55 床（医療型 28、介護型 27 床）を有しています。現在、医療型の病棟は回復期リハビリ病棟としての機能を持たせ、平成 27 年度の正式な回復期リハビリテーション病棟開始をめざし取組みを始めました。大田圏域では最初の回復期リハビリ病棟となり、地域ニーズの高い診療機能でもあることから、着実に進めていきたいと考えています。

当該の特徴の一つに、平成 23 年に開設した大田総合医育成センターがあります。島根大学医学部のバーチャルキャンパスであり、大田市の寄附講座に

より運営されています。現在医師スタッフはセンター長はじめ 5 名と少数精鋭ではありますが、総合医及び家庭医の後期研修プログラムを持ち、病院の医師スタッフと共同し、研修医の教育に取り組んでいます。当センターの見本となった筑波大学医学部のバーチャルキャンパスである茨城県厚生連総合病院水戸協同病院からは、毎年講師の出張指導を頂き、研修環境の充実、向上にも取り組んでいます。

また、現在平成 29 年度の開院に向け、新病院の建設の準備が進んでいます。現地に免震構造の地上 5 階の病院が建設される予定です。病床数は現在より 55 床減らし 284 床となりますが、現有の機能に加え、生活習慣病対策や地域の保健や福祉との連携を強化した、より地域に根差した医療の拠点となることを目指しています。

地域医療を取り巻く環境は、これからも厳しいものがあると思われませんが、大田市立病院は、地域住民の安心と安全の要として、地域医療を支え続けていきたいと考えています。



国立病院機構 松江医療センター

看護部長 武海 栄

当院は、全米オープンテニスで準優勝し脚光を浴びた錦織圭選手の故郷・松江市の南部にあり、結核病床を有する病院としては交通至便な環境にあります。



当院は、明治41年に開院した松江衛戍病院に始まり、百年を超える歴史を有します。その後、国立療養所を経て、昭和46年に国立松江病院として発足しました。平成16年には独立行政法人に移行し、呼吸器病センターが設置されました。そして、平成21年に新病棟が完成したのを機に、松江医療センターと改称し、また本年2月には念願の外來管理診療棟と看護師宿舎が完成いたしました。7月に吹き抜けの外來ホールで行われたヴィオラとピアノのコンサートは、患者さんや家族の皆様に変な喜びをいただきました。引き続き、駐車場を含む玄關

前の整備を行い、来年の2月に全ての工事が終了する予定です。

「真心と思いやり」を基本理念とし、四つの診療機能①呼吸器疾患②神経難病③筋ジストロフィー④重症心身障害に特化した専門性の高い医療・看護を提供しています。呼吸器疾患110床（結核12床含む）、神経難病50床、筋ジストロフィーと重症心身障害180床の計340床で運営し、標榜診療科は、14診療科です。

医師数は20名で、呼吸器内科医がほぼ半数を占めています。また呼吸器外科医は4名で、年間100例以上肺がん等の手術を行っています。看護師は、212名、療養介助職30名、看護助手33名計275名です。認定看護師も4分野4名が誕生し、ICT、NST、RSTと医師を中心としたチーム医療が行われています。今後は、がん医療・看護の充実を目指し、プロフェッショナルを育成していく予定です。



平成26年度新採用者との記念撮影

全病棟で10対1入院基本料を取得

しており、3〜5人体制で3交替を行っています。固定チームナーシングを行っており、新採用者もプリセプター、支援看護師と担当を決めて教育しています。が、「チームで育てる」を合言葉に、病院全体で見守っています。先日半年目の宿泊研修が行われ、「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」ということで、枕木山に登りました。

当院の教育体制で特筆すべきは、教育研修部があり、医師が研修部長、教育担当部長が副研修部長に任命されていることです。院内研修に関して一年間の予定が冊子となって配付され、活動報告書にまとめられます。院内認定制度があり、4部門について専門性の高い教育がなされ、認定された暁には白衣に認定毎に色の違った★のマークを刺繍することになっています。また、中学生・高校生の職場体験にも、多くの参加者があり、看護学生の実習も4校から受けています。そして、難病医療従事者研修等有資格者のレベルアップにも協力しています。

近隣に多くの総合病院、専門病院があり、松江医療圏はとても充実していると思います。各々の病院が得意とするところで連携を取り、地域の皆様の疾病の予防・治療のみならず、健康の保持増進に努めていかなければならな

いと考えております。11月8日には「ふれあいまつり」と称して、地域の皆様との交流の場を設けますので、多数のご参加をお待ち申し上げております。



島根県立中央病院

1年目研修医 白神 智貴



島根県立中央病院、初期臨床研修医1年目の白神智貴と申します。臨床研修が

始まって、早くも5カ月が過ぎようとしています。少しずつ環境に慣れてはきましたが、未だに戸惑うことも多く、毎日が新しい発見の連続です。

私は島根県の雲南市という山間地区で生まれ育ち、県外での浪人期間を経て、地元の島根大学に進学しました。大自然に囲まれた、水や空気もよい環境で育ちましたが、幼い頃は身体が弱く、夜間になると喘息発作を繰り返し、地元の病院のお世話になっていました。

成長するにつれて体は丈夫になり、現在は夢がなくなって医師としての第一歩を踏み出しています。

臨床研修では、医療従事者としての礼節、カルテの使い方から始まり、座学に留まらず、学ぶべき事が本当に多く、挫けそうになることも多々ありますが、職種をこえて多くの方々にサポートして頂きながら、また上級医である先輩方の姿を見て、少しでも近づきたいという思いを胸に、14人の同期で励まし合い、切磋琢磨しながら頑張っています。人は一人では生きていけない、多くの人に支えてもらって今の自分があるのだと、身に染みて痛感する毎日です。この様に恵まれた環境の中で研修させて頂けることに感謝しながら、今後日々精進していきたいと思っています。

昨今、地域医療の崩壊が叫ばれて久しいですが、私たちひとりひとりが地域のために何かできないかを考えることが大切なのではないでしょうか。今後も感謝の気持ち、初心を忘れずに、医師として、また一人の人間として、自分にできることを全力で頑張りたいと思います。今、私達が先輩の背中を追いかけている様に、いつか先輩が自分の背中をみてくれるようにならないければ、と感じます。そして、そ

れがまた次の世代へと受け継がれていくことを信じて、今自分にできること、一日一日を大事に前向きに過ごしていきたいと考えます。

### 一般社団法人しまね地域医療 支援センターの活動報告

#### 市町村、医療機関情報交換会

しまね地域医療支援センターと島根大学医学部地域医療支援学講座は、センター会員である病院、市町村を対象として、「市町村、医療機関情報交換会」を共同開催しました。

7月9日は県西部地区を対象に浜田医療センター、7月10日は県東部地区を対象に島根大学医学部みらい棟ギヤラクシーの2会場に分けて開催し、テレビ会議参加も含めて多くの皆様にご参加いただきました。

前半は、センターの事業内容や大学の地域医療カリキュラムの説明を行い、雲南市・雲南市立病院と益田市から地域枠推薦の医学生や医師と地域との交流の持ち方等についての取組みが紹介されました。

その後、5グループに分かれてディスカッションを行い、「地域枠学生、医師に対して各機関が今すぐできること、

地域で連携してやっていくこと」「出身地域での勤務をどのように果たしてもらうのか」「各機関の役割」をテーマとして議論が行われました。

参加者からは、この会が、他地域や関係機関との情報交換や交流の場となり、地域枠推薦の医学生や医師が地域で勤務する動機付けを地域としてどう取組むのかを考える良いきっかけになったという意見をいただきました。一方で、情報提供が多すぎた、焦点が絞りきれなかったという声もあり、今後はテーマや会議参加者を考える等、より活発な意見交換の場となるよう工夫をしていきたいと考えています。

#### しまね地域医療支援センター 渡野

#### レジナビフェア2014

「レジナビフェア2014（臨床研修病院合同説明会）」が、7月6日（日）にインテックス大阪で、7月20日（日）に東京ビッグサイトで開催され、昨年に引き続き、県内の全7臨床研修病院が、1つのブースでまとまって「オールしまね」として出展しました。

今年度は趣向を凝らして、島根県のブース看板をしまね地域医療支援センターのオリジナルキャラクター「しまねで頑張る！ドクター吉田くん」にしたり、スタッフ全員が同じユニフォーム

を着たりすることで、医学生が気軽に訪問できるような雰囲気になるよう工夫しました。

大阪、東京会場合わせて約150名の医学生の皆さんが島根県のブースを訪れ、島根県の特徴やそれぞれの病院の研修プログラム内容などを熱心に聞いていました。

ブースを訪れ、島根県に興味を持った医学生が、その後島根県内の病院を見学に来られました。このような機会を大切にして、1人でも多くの医学生に島根県で将来医師として勤務してもらい、島根県の医療に貢献してもらいたいことを願っています。

#### しまね地域医療支援センター 水津

### 平成26年度 夏季地域医療実習報告会

今年度も8月18日（月）～8月22日（金）まで夏季地域医療実習が行われ



レジナビ 大阪会場

ました。

松江地区、雲南地区、出雲地区、大田地区、浜田地区、益田地区、隠岐(島前・島後)地区に分かれ、総勢37名の学生が参加しました。

実習報告会は最終日の8月22日(金)14時～17時に島根大学医学部附属病院みらい棟にて開催しました。当日は夏季地域医療実習に参加した11グループに併せて、東北大学被災地医療体験実習、プライマリ・ケア学会夏季セミナーに参加した学生にも報告してもらいました。

報告会では、実習した地域の現状と、地域で頑張っておられる医師あるいはコメディカルの方々とのチーム医療、訪問診療で体感した、地域の住民の方の思いなど、学生ならではの視点で報告してくれました。自分の実習した地域の課題、今後の改善策まで発表してくれたグループもあり、盛りだくさんの内容でした。

今回はTV会

議システムで、実際に実習を担当していただいた先生方にも参加していただき、報告を聞いていただくこともで



きました。

報告会終了後の懇親会では大学間を越えた横のつながりもできたようです。このような実習を通じて地域医療の楽しさを体感してもらい、地域に興味を持ち続けてくれることを期待しています。

最後になりましたが、夏季地域医療実習に際しては、地域のたくさんの方々にご尽力いただき、無事終えることができました。誠にありがとうございました。

【地域医療支援学講座 日高】

### 平成26年度自治医科大学説明会

平成26年度の自治医科大学の大学説明会が、県内4会場(8月8日浜田高校、9日益田高校、21日出雲高校、9月7日サンラポーむらくも)で開催されました。※21日の出雲高校は、島根大学医学部と合同で説明会を開催。自治医科大学は、地域医療を担う総合医の養成を主な目的として、47都道府県が共同で設立した学校法人によって運営されている大学です。入学金や授業料等の修学資金が貸与されるとい

う特徴があり、卒業生は出身県に戻り、一定期間地域の医療機関で勤務します。また、毎年高い医師国家試験合格者を誇っており、平成26年の合格率は99.1%で全国1位でした。

各都道府県から毎年2～3名が入学し、現在17名の島根県出身者が在籍しています。また、卒業生は77名おり、このうち50名が県内の医療機関等で医師として活躍しています。

大学説明会には、医学部への進学を志望している高校生やその保護者、高校教諭等30名が参加され、学校紹介のDVD上映



や、自治医科大学の亀崎教授による教育内容や特色についての説明が行われました。地元出身の在学生や卒業医師による体験談には、皆さん熱心に耳を傾けておられました。

今年の説明会には、高校1、2年生の参加が多く、具体的な進路選択はこれからになると思いますが、説明会をきっかけに、地元島根の地域医療に関心を持っていただき、今後の進路の選択肢の一つにしていただければ幸いです。

【医療政策課 三木】

### 島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

### 医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー(県負担)を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

### 「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室

TEL 0852-22-6684 FAX 0852-22-6040

E-Mail [iryuu@pref.shimane.lg.jp](mailto:iryuu@pref.shimane.lg.jp)

ホームページ:

島根の医師確保対策

検索

